

世界遺産でたどる 人類は何を 造ってきたのか

紀元前から現代まで
290点の写真で読み解く
壮大な歴史ロマン



有史以前 ピラミッド、モヘンジョダロ 宗教建築の開花 モン・サン・ミシェル

王朝と帝国の時代 クレムリン、マチュ・ピチュ 探検から交易へ ヴェルサイユ宮殿

科学と産業革命 サグラダ・ファミリア、エッフェル塔ほか

102の「世界遺産」建造物を一挙紹介

目次

有史以前から3世紀末まで

文明の曙

- | | | | |
|--------------------------|----------|-------|----|
| 01 オルドヴァイ渓谷 | ● タンザニア | | 8 |
| 02 ジャワ島 | ● インドネシア | | 9 |
| 03 タドラット・アカクス | ● リビア | | 10 |
| 04 クエバ・デ・ラス・マノス | ● アルゼンチン | | 11 |
| 05 アルタの岩絵 | ● ノルウェー | | 12 |
| 06 ジュガンティーヤ神殿 | ● マルタ | | 13 |
| 07 ストーンヘンジ | ● イギリス | | 14 |
| 08 クフ王のピラミッド(ギーザの大ピラミッド) | ● エジプト | | 15 |
| 09 モヘンジヨダロ | ● パキスタン | | 16 |
| 10 バーレーン要塞 | ● バーレーン | | 17 |
| 11 ハツトウシャ | ● トルコ | | 18 |
| 12 チョガ・ザンビール | ● イラン | | 19 |
| 13 サナア旧市街 | ● イエメン | | 20 |
| 14 オリンピアの古代遺跡 | ● ギリシャ | | 21 |
| 15 ペルセポリス | ● イラン | | 22 |



16 モンテ・アルバンの「踊る人々の神殿」 ● メキシコ

コラム01 世界の洞窟壁画と Fresco

- | | | | |
|---------------------|---------|-------|----|
| 17 パルテノン神殿 | ● ギリシャ | | 24 |
| 18 ブッダガヤの大菩提寺 | ● インド | | 25 |
| 19 都江堰 | ● 中国 | | 26 |
| 20 ナスカの地上絵 | ● ペルー | | 27 |
| 21 ヒエラポリス | ● トルコ | | 28 |
| 22 エル・カズネ | ● ヨルダン | | 29 |
| 23 嘆きの壁 | ● エルサレム | | 30 |
| 24 ポンペイ | ● イタリア | | 31 |
| 25 ハドリアヌスの長城 | ● イギリス | | 32 |
| 26 テオティワカンの「死者の大通り」 | ● メキシコ | | 33 |
| 27 ルーゴのローマ城壁 | ● スペイン | | 34 |

2章

4世紀から10世紀末まで 宗教建築の開花

- | | | | |
|-------------------------|----------|-------|----|
| 28 聖誕教会 | ● パレスチナ | | 38 |
| 29 サン・パオロ・フォーリ・レ・ムーラ大聖堂 | ● イタリア | | 39 |
| 30 雲岡石窟 | ● 中国 | | 40 |
| 31 シギリヤ | ● スリランカ | | 41 |
| 32 聖カトリーナ修道院 | ● エジプト | | 42 |
| 33 アヤソフィア | ● トルコ | | 43 |
| 34 厳島神社 | ● 日本 | | 44 |
| 35 グランド・モスク | ● チュニジア | | 45 |
| 36 モン・サン・ミッシェル | ● フランス | | 46 |
| 37 神殿26にある神聖文字の階段 | ● ホンジュラス | | 47 |
| 38 ボロブドゥル | ● インドネシア | | 48 |
| 39 アーヘン大聖堂 | ● ドイツ | | 49 |
| 40 プラハ城 | ● チェコ | | 50 |
| 41 プエブロ・ボニーート | ● アメリカ | | 51 |
| 42 チェン・イツツア | ● メキシコ | | 52 |
| 43 ラクシュマナ寺院 | ● インド | | 53 |



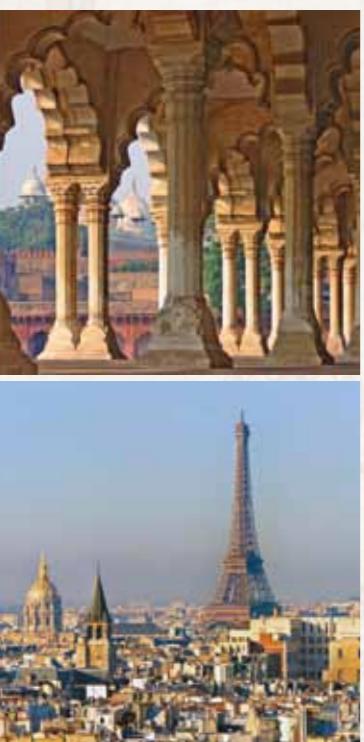
16 モンテ・アルバンの「踊る人々の神殿」 ● メキシコ

コラム02 さまざまな建築様式

3章

信仰の波及と封建制

11世紀から15世紀末まで



- コラム03 世界遺産に匹敵する遺産**
- 50 ピサの斜塔 ●イタリア
 - 51 マルボルク城 ●ポーランド
 - 52 アヴィニヨン教皇宮 ●フランス
 - 53 姫路城 ●日本
 - 54 クレムリン ●ロシア
 - 55 嘉峪関 ●中国
 - 56 ワット・マハータート ●タイ
 - 57 シベニクの聖ヤコブ大聖堂 ●クロアチア
 - 58 グーリー・アミール廟 ●ウズベキスタン
 - 59 紫禁城 ●中国
 - 60 マチュ・ピチュ ●ペルー
 - 61 シャイト・ゴンブス・モスク ●バングラデシュ
 - 62 システイーナ礼拝堂 ●バチカン
 - 63 トプカプ宮殿 ●トルコ
 - 64 最後の晩餐 ●イタリア

- 4章 探検から交易へ**
- 16世紀から18世紀末まで
- 65 ジエロニモス修道院 ●ポルトガル
 - 66 パナマ・ビエホ ●パナマ
 - 67 コローメンスコエの昇天教会 ●ロシア
 - 68 アーグラ城塞 ●インド
 - 69 リトミシュル城 ●チエコ
 - 70 マニラのサン・アグスチン教会 ●フィリピン
 - 71 聖ポール天主堂 ●中国(マカオ)
 - 72 来遠橋(日本橋) ●ベトナム
 - 73 アムステルダムの運河 ●オランダ
 - 74 日光東照宮 ●日本



5章

科学と産業の時代

19世紀と20世紀

- コラム04 世界遺産によく似た建造物**
- 75 サン・ペドロ・デ・ラ・ロカ城 ●キューバ
 - 76 ポタラ宮 ●中国
 - 77 ケープ・コーンスト城 ●ガーナ
 - 78 ヴェルサイユ宮殿 ●フランス
 - 79 キジ島の顯栄聖堂 ●ロシア
 - 80 首里城 ●日本
 - 81 ジャンタール・マンータル ●インド
 - 82 ブルス広場 ●フランス
 - 83 アチャオ教会 ●チリ
 - 84 スオメンリンナの要塞 ●フィンランド
 - 85 独立記念館 ●アメリカ
 - 86 アイアンブリッジ ●イギリス
 - 87 カザン聖堂 ●ロシア
 - 88 ムスカウアーパー公園 ●ドイツ/ポーランド
 - 89 リドー運河 ●カナダ
 - 90 モアイ ●チリ
 - 91 ニルギリ山岳鉄道 ●インド
 - 92 フリー・マントル刑務所 ●オーストラリア
 - 93 サンタ・ラウラの硝石工場 ●チリ
 - 94 フェルクリンゲン製鉄所 ●ドイツ
 - 95 サグラダ・ファミリア ●スペイン
 - 96 自由の女神 ●アメリカ
 - 97 チャトラパティ・シヴァージー・ターミナス駅 ●インド
 - 98 エッフェル塔 ●フランス
 - 99 カタルーニャ音楽堂 ●スペイン
 - 100 泥のモスク ●マリ
 - 101 原爆ドーム ●日本
 - 102 シドニーのオペラハウス ●オーストラリア

コラム05 現代のユニークな建築物

1章

文明の曙

今からおよそ400万年前、人類の祖先である猿人の誕生とともに人類の歴史が始まった。人類は次第に農耕や牧畜を始め、文字を発明し、都市を築き上げた。そして、文明の発達は人々に精神的な変革をもたらし、世界各地で思想家や宗教が出現した。人類史の基盤となる時代の始まりである。



有史以前～3世紀の建築史	
オルドヴァイ渓谷	230万年前
ジャワ島	150万年前
タドラット・アカクス	BC 1万 2000
クエバ・デ・ラス・マノス	9000
アルタの岩絵	4200
ジュガンティーヤ神殿	3600
ストーンヘンジ	3100
クフ王のピラミッド	2540
モヘンジョダロ	2500
バーレーン要塞	2300
ハットウシャ	1700
チョガ・ザンビール	1250
サナア旧市街	1000
オリンピアの古代遺跡	776
ペルセポリス	520
モンテ・アルバンの「踊る人々の神殿」	500
バルテノン神殿	447
ブッダガヤの大菩提寺	
都江堰	260
ナスカの地上絵	200
ヒエラボリス	190
エル・カズネ	100
嘆きの壁	20
ポンペイ	AD 79
ハドリアヌスの長城	122
ティオティワカンの「死者の大通り」	150
ルゴのローマ城壁	263

トルコ西部の遺跡、ヒエラボリス。

01 オルドヴァイ渓谷

最古のヒト属と石器文明発祥の地

タンザニア北部に位置するンゴロンゴロ保全地域は、数百万年前に形成された火山のカルデラ地形に広がる自然保護地域である。この大地に刻まれた深さ100m、長さ40kmもの広大な渓谷で、1913年、ドイツ人の教授によつて人骨の化石が発見された。1959年には、イギリスの人類学者ルイス・リーキー夫妻によつて180万年前の猿人であるアウストラロピテクス・ボイセイの化石が、その4年後には、230万～140万年前のホモ・ハビリスの化石と彼らが使つていた原始的な石器が発見された。

ホモ・ハビリスは、道具を製作する「器用なヒト」の意味で、最も初期のヒト属とされる。この発見により、オルドヴァイ渓谷は人類の進化をたどるうえで世界最古・最重要の遺跡となつた。そして2010年、ンゴロンゴロ保全地域は自然遺産から文化・文明を含む複合遺産へ拡大登録された。オルドヴァイ渓谷は世界遺産の中では、人類の祖先が残した最古の文化といえる。



【右】数百万年前の火山の噴火によってできたンゴロンゴロクレーター。オルドヴァイ渓谷はこのクレーターの西に位置している。【下】オルドヴァイ渓谷の全景。赤や白の地層は噴火活動によって形成された。



*火山の活動によってできた巨大な凹地。

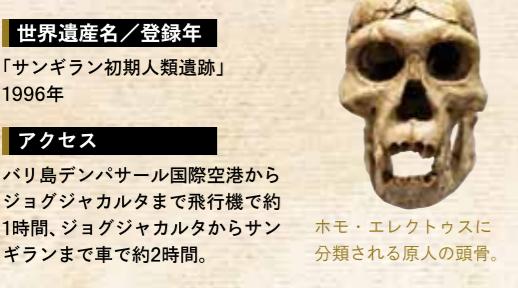
150万年前 ジャワ原人が生活



ジャワ原人の化石が発掘された場所。



ホモ・エレクトウスに分類される原人の頭骨。



サンギラン博物館の敷地に設置されたジャワ原人の頭像。館内には頭骨、歯、大腿骨などの化石が展示されている。

02 ジャワ島

Java

インドネシア



世界の歴史

できいじと

日本

フリカ

約180万～140万年前

ホモ・エルガステル

アフリカ東部で繁栄する。

230万～180万年前 ヒト属と石器の誕生

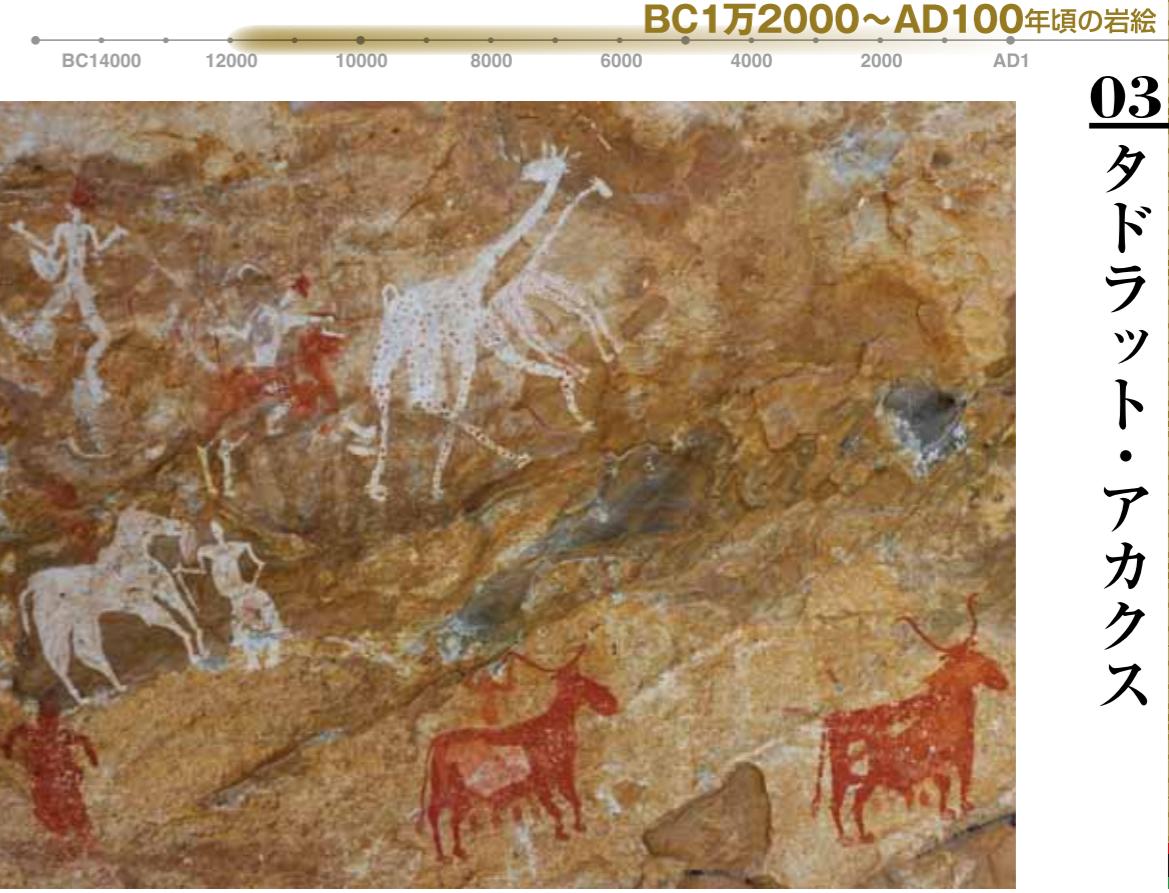


02 ジャワ島

Java

インドネシア

03 タドラツト・アカクス



ウシやキリンなどを追う人々が描かれた岩絵。砂漠化が進む以前はこの地にサバンナが広がっていたと考えられている。

BC1万2000~AD100年頃の岩絵

BC14000 12000 10000 8000 6000 4000 2000 AD1

04 クエバ・デ・ラス・マノス



Cueva de las Manos

アルゼンチン

洞窟を埋め尽くす無数の手形

南アメリカ大陸の南端に位置するペリト・モレノ市の近郊、ピントウラス峡谷の中にクエバ・デ・ラス・マノスの洞窟は存在する。スペイン語で「手の洞窟」を意味するこの洞窟には、大小858もの奇妙な手形が残されている。

手形はこの地を拠点とした先住民が残したもので、その手法は独創的だ。壁に左手を押し当て、その上から骨で作った管で塗料を吹き付けて描いたとされる。手の形が濃く浮き上がる「ボジ」と、白く浮き上がる「ネガ」があり、描かれた年代も異なるという。手形が描かれた理由は不明だが、先住民たちが成人の通過儀礼として手形を残し、この洞窟はその儀式を行う聖地のようなものだと考えられている。

洞窟にはグアナコやレアなどの動物を描いた壁画もあり、これらの絵は紀元前9000年頃のものと推測されている。この時期までに人類が南アメリカ大陸南端に達したことを示す世界遺産である。

世界遺産名／登録年

「リオ・ビントウラスのクエバ・デ・ラス・マノス」
1999年

アクセス

ブエノスアイレスからコモドロ・リバダビアまで飛行機で3時間半、コモドロ・リバダビアからバスでペリト・モレノへ行き、現地でツアーに参加。



【上】ピントウラス峡谷の全景。【右】赤・白・黒の塗料で表された無数の手形。

05 アルタの岩絵

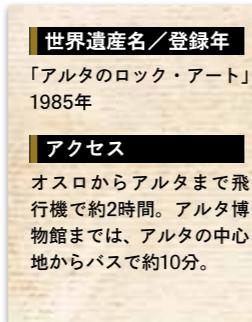


鮮やかに刻まれた極北の芸術

ヨーロッパ最北端に位置するノルウェーの町アルタの海岸に、約5000点もの先史時代の岩絵群が広がっている。花崗岩の岩盤に輪郭を彫り、その上から顔料を塗り込んで描かれた岩絵には、トナカイやヘラジカ、クマなどの動物のほか、それらを狩る人々や漁船を操る様子が克明に刻まれている。

ノルウェーの北部には、約1万年前から人が住んでいたとされ、岩絵は紀元前4200~前500年の間に描か

【上】海岸に残された岩絵。人々が船を操る様子が描かれている。【下】トナカイの群れとそれを射る人物。



世界遺産名／登録年
「アルタのロック・アート」
1985年

アクセス
オスロからアルタまで飛行機で約2時間。アルタ博物館までは、アルタの中心地からバスで約10分。

古く、下にくほど新しい。これは、氷河期の終わりに長い時間をかけて海岸の陸地が隆起し、海岸線が下がって新たに現れた岩盤に、新しい絵が描かれたためとされている。古い時代の岩絵には、さまざまな種類の動物や幾何学的な図形など、石器時代の狩猟生活の様子が描かれ、新しい時代のものは農業や呪術、儀式などが描かれている。

アルタに残る数々の岩絵は、人類の版図が北極圏にまで達したことを見

Rock Art of Alta



【日本】紀元前1万年頃、縄文時代早期。本州以南でヒグマなどの陸上大型動物が絶滅する。【中東】紀元前9000年頃、牛乳が飲まれるようになり牧畜が始まると、世界遺産である。

ノルウェー

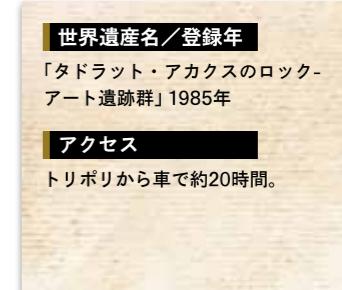


砂漠に残された生活の記録
広大なサハラ砂漠の一部であるリビア西部のタドラツト・アカクス。砂丘や峡谷、アーチ型の岩山などが広がる荒涼とした大地からは想像もつかないが、先史時代から描かれた何千もの岩絵が、この地に動物と人間の豊かな営みがあったことを今に伝えている。

岩絵は、国境を越えてアルジェリアのタツシリ・ナジェールまでの広範囲に存在する。最も古い紀元前1万2000年頃の岩絵には、ゾウやキリン、カバ、サイなど多数の野生動物が描かれており、これらに加えてこれらを

迫る狩猟採集民の姿が描かれ、さらに時代が進むと家畜を飼育した様子が見られる。そして徐々に砂漠化が進行し始めた紀元前1000年以降の岩絵には、馬に乗った人や戦車、そしてラクダが描かれるようになつた。

岩絵には、環境に合わせて人々が生活様式を変化させていったことが克明に記録されている。狩猟採集から牧畜、農耕へと、人類の文明が変化していく様子を記録した遺跡は、世界遺産の中でも稀有な部類である。

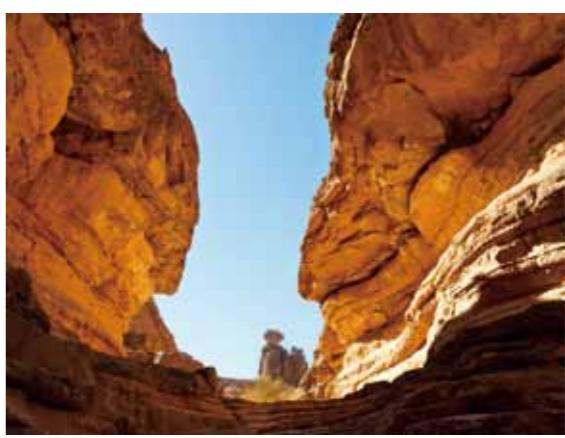


世界遺産名／登録年
「タドラツト・アカクスのロック・アート遺跡群」1985年

アクセス
トリポリから車で約20時間。



武具か楽器のようなものを持つ人物像。



植物の乏しい砂漠地帯だが、浸食によって形成された岩山が変化に富んだ景観をつくり出している。

別冊宝島2110号

世界遺産でたどる

人類は何を造ってきたのか

2014年1月14日発行

創刊人 蓬見清一

共同発行人 関川 誠、熊谷みのり

編集長 井野澄恵

編 集 橋詰久史

表紙ロゴ作成 妹尾善史(landfish)

販売責任者 巣瀬典男

制作責任者 伊藤俊之

発行所 株式会社 宝島社

〒102-8388

東京都千代田区一番町25番地

電話 〔営業〕03-3234-4621

〔編集〕03-3239-0069

<http://tkj.jp>

振替 00170-1-170829

(株)宝島社

印刷・製本 株式会社リープルテック

企画・編集・執筆 EDing Corporation

編集スタッフ 乙原優子・梶間伴果・
谷伸子・多田あゆみ

デザイン 乙原優子・梶間伴果

写真 Shutterstock
123RF
photolibrary

DTPレイアウト EDing Corporation

本誌の無断転載・複製を禁じます。
乱丁・落丁本はお取り替えいたします。

©TAKARAJIMASHA 2014 Printed in Japan

アドリア海に臨むシベニクの街並みと聖
ヤコブ大聖堂(P70)。

